

自動車・同部品・タイヤ

1. 評価対象企業（21 社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、アイシン、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機、小糸製作所、豊田合成、ニフコ（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		9	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は 77 頁参照。なお、評価分野④は「コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」から名称を変更した。

（2） 評価実施アナリストは 29 名（所属先 23 社）である。（氏名等は 78 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は 76 頁参照）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、評価項目分野のうちコーポレート・ガバナンス関連を ESG 関連に名称変更し、同分野を中心に項目内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.8 点（昨年度 65.0 点）、総合評価点の標準偏差は 6.5 点（昨年度 5.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー（4 社：横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業）65.9 点（昨年度 64.2 点）、自動車メーカー（10 社：日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）64.8 点（昨年度 64.5 点）、自動車部品メーカー（7 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ）64.1 点（昨年度 66.1 点）となった。タイヤメーカーにおいては得点率が改善した企業が多く、業態としても昨年度の総合評価平均点を上回った。なお、タイヤメーカーは、2006 年度に評価対象となって以来、業態別で初めてのトップとなった。一方、自動車部品メーカーは下がった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%（昨年度 66%）、説明会等が 69%（昨年度 66%）、フェア・ディスクロージャーが 73%（昨年度 67%）、ESG 関連が 60%（昨年度 65%）、自主的情報開示が 63%（昨年度 62%）となった。昨年度に得点率を大きく

下げたフェア・ディスクロージャーが改善したが、ESG 関連は下がった。

- ④ 評価項目について見ると、70%以上となったものは次の2項目（フェア・ディスクロージャーの項目(a)、説明会等の中の1項目(b)）であった。そのほかは、50%台の1項目（次の⑤の項目）を除き、全て60%台であった（昨年度は、70%以上の項目はなく、50%台が1項目）。

- (a) 「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率73%〔昨年度67%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台4社・70%台15社・80%台2社）
- (b) 「企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか」（平均得点率70%〔昨年度67%〕）（得点率：50%台2社・60%台6社・70%台13社）

- ⑤ ESG 関連の次の項目（本年度の新設項目）は50%台となり、低い水準であった。

- ・「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか」（平均得点率56%）（得点率：40%台4社・50%台10社・60%台6社・70%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 プリヂストン（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点75.9点〔昨年度比+3.0点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等（得点率〈以下省略〉81%）、ESG 関連（74%）が第1位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（79%）、説明会等が第5位（74%）、自主的情報開示が同得点第5位（76%）となった。2分野においてトップとなったほか、説明会等の得点率が昨年度に比べ大きく改善したことから、総合順位で第1位となった。タイヤメーカーとしては、初の第1位獲得である。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が、最も高い評価となった。また、「IR部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」も第2位となったことから、この分野において第1位となった。これらに関連して、スモールミーティングを含めCEO、CFOによる情報発信の機会を多く設けていること、投資家ニーズに十分に対応した対話姿勢などを評価する声が寄せられた。また、説明会動画の長期配信を評価する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」（同得点第3位）および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」（同得点第6位）は共に、昨年度に比べ10ポイント以上得点率が改善した。これらに関連して、中期経営計画などのアップデートや取組内容の開示が充実していること、説明資料（ポイント）と付属資料（詳細）の使い分けが適切であることを評価する声が寄せられた。また、開示情報の改善が継続的に見られるとの声もあった。なお、原材料価格の業績影響に関して、定量的な前提数値の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第3位となった。これに関連して、決算説明会動画の英語配信や、メディア向けも含めた情報発信の頻度の高さを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が、最も高い評価となり、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」も、同得点第1位となった。また、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が第2位となり、これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、ESG

への取組みの開示、アップデートなど全般に充実しているとの声が寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、同得点第5位となり、昨年度と比べ得点率が改善した。これに関連して、マネジメントによるスモールミーティングや、ブリヂストンイノベーションパーク見学会などを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 デンソー（総合評価点 74.6 点〔昨年度比+1.1 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、**説明会等**が第1位（77%）、**ESG 関連**（73%）、**自主的情報開示**（80%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第3位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第10位（70%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」（第8位）は、昨年度と比べ得点率が下がった。これに関連して、**CFO** の市場との対話姿勢、事業説明会の開催などを評価する声がある一方で、取材対応に関して消極的になったことは残念との声もあった。「**IR 部門**への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、**IR 部門**への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」については、平均得点率と同程度となった。これに関連して、**IR 部門**への情報集積を評価しつつ、人員体制のさらなる充実を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」が、最も高い評価となった。これに関連して、**CFO** が他社との相対感などを積極的に発言し説明がわかりやすいとの声や、説明会における質疑応答では投資家の関心に応える姿勢が見られるとの声が寄せられた。「企業分析に必要な情報が得られること」は、同得点第6位となった。これに関連して、決算資料の利益増減に関する定義の変更が多く、理解がやや困難との声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および **IR 部門**が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第3位となり、昨年度と比べ得点率が改善した。これに関連して、決算説明会での質疑応答を英語でウェブサイトに掲載していることを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が、最も高い評価となり、「脱炭素に限らず、**ESG** に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」も第2位となった。また、「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は、同得点第4位となった。これらの結果、この分野において第2位となった。これらに関連して、**ESG** の取組みと企業価値向上とを結びつけた戦略を評価する声が寄せられたほか、**ESG** の取組みに積極的であり内容もアップデートされているとの声もあった。なお、業界の中では資本政策に踏み込んでいるものの、グループ共通のガバナンスの一層の説明が課題との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第2位となり、80%以上の得点率となった。これに関連して、半導体戦略説明会の開催を評価する声が多く寄せられた。

第3位 豊田合成（総合評価点 71.5 点〔昨年度比-1.8 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第2位（80%）、**ESG 関連**が第3位（67%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第4位（75%）、**自主的情報開示**が同得点第5位（76%）、**説明会等**が同得点第9位（71%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」および「**IR 部門**への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、**IR 部門**への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」が共に、同得点第4位となった。これらに関連して、**IR 情報**に関する積極的なメール配信や、事業説明会における中期戦略の説明を評価する声

が寄せられた。また、IR 部門への情報集積が進んできているとの声もあった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」（同得点第 8 位）および「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」（第 10 位）は共に、平均得点率と同程度にとどまった。これに関連して、説明会資料における地域別増減要因分析の開示を評価しつつ、その説明がややわかりにくいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」（第 2 位）は、80% 以上の得点率となった。これに関連して、適時開示やメールでのアップデートを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」が第 3 位となり、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」が第 4 位となった。「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は第 8 位となったが、平均得点率を上回った。これらの結果、この分野において第 3 位となった。これらに関連して、事業説明会（ESG を含む）の内容は業界内で先進的であり開示姿勢も評価できるとの声があった。なお、開示内容について適時のアップデートを望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」（同得点第 5 位）は、平均得点率を 10 ポイント以上上回った。これに関連して、事業説明会の内容を評価する声が多く寄せられた。また、社長とのスモールミーティングや、海外拠点とのミーティングが有益との声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **TOYO TIRE**（総合評価点 66.3 点〔昨年度比+4.3 点〕、第 10 位〔昨年度第 15 位〕）

- ① 同社は、昨年度から評価対象とした会社である。**説明会等**が第 4 位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（73%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 10 位（73%）、**ESG 関連**が第 12 位（58%）、**自主的情報開示**が第 14 位（63%）となった。昨年度に比べ、**ESG 関連**を除く 4 分野で得点率が改善した結果、順位が大きく上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が第 6 位となり、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）」が、同得点第 7 位となった。これらの結果、この分野において第 6 位（昨年度第 16 位）となった。これらに関連して、社長スモールミーティングの開催など IR が積極的になった、市場との対話姿勢が向上しているとの声があった。また、IR 担当者間の引継ぎも円滑に行われているとの声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が、同得点第 2 位となり、「説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）が十分であること」も、同得点第 3 位となった。この結果、この分野において第 4 位（昨年度第 7 位）となった。これらに関連して、開示項目が改善したとの声や、会社の説明が明快であるとの声があった。
- ④ **ESG 関連**においては、「脱炭素に限らず、ESG に関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していること」および「資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていること」は共に、平均得点率と同程度となった。これらに関連して、株主還元方針の開示内容や、サステナビリティ説明会の開催を評価する声があった。なお、「脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していること。また、適切にアップデートしていること」は、平均得点率に達しなかった。これに関連して、サステナビリティ説明会の定期的なアップデートを望む声があった。

以 上

2022年度 ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5108 プリヂストン	75.9	16.2	1	14.8	5	7.9	3	29.4	1	7.6	5	3
2	6902 デンソー	74.6	14.0	10	15.4	1	7.9	3	29.3	2	8.0	2	1
3	7282 豊田合成	71.5	15.0	4	14.1	9	8.0	2	26.8	3	7.6	5	2
4	7203 トヨタ自動車	71.4	14.4	7	14.2	8	8.2	1	26.7	4	7.9	3	4
5	7270 SUBARU	69.3	15.2	2	15.1	2	7.6	7	23.9	10	7.5	7	5
6	7201 日産自動車	69.2	15.2	2	12.3	19	7.7	5	25.6	6	8.4	1	5
7	7202 いすゞ自動車	68.4	14.1	9	15.1	2	7.5	8	24.8	8	6.9	11	7
8	7272 ヤマハ発動機	68.0	14.3	8	13.7	11	7.3	10	24.8	8	7.9	3	10
9	7267 本田技研工業	66.7	13.5	11	13.5	13	7.3	10	25.9	5	6.5	13	13
10	5105 TOYO TIRE	66.3	14.6	6	14.9	4	7.3	10	23.2	12	6.3	14	15
11	7259 アイシン	65.9	12.1	18	13.5	13	7.7	5	25.4	7	7.2	9	8
12	3116 トヨタ紡織	65.6	12.9	13	14.4	6	7.3	10	23.6	11	7.4	8	8
13	7211 三菱自動車工業	64.3	14.7	5	14.4	6	7.2	15	21.4	17	6.6	12	12
14	5110 住友ゴム工業	61.4	12.1	18	13.3	15	7.1	17	21.9	15	7.0	10	18
15	7988 ニッポ	61.1	13.4	12	13.7	11	6.5	20	23.1	13	4.4	18	
16	7261 マツダ	60.3	12.8	14	14.1	9	7.4	9	21.8	16	4.2	19	11
17	5101 横浜ゴム	59.9	12.4	15	13.3	15	7.2	15	22.0	14	5.0	15	14
18	7269 スズキ	57.9	12.4	15	12.7	18	6.9	18	21.2	19	4.7	16	17
19	6201 豊田自動織機	57.7	12.3	17	13.2	17	7.3	10	21.3	18	3.6	20	16
20	7276 小糸製作所	52.6	11.6	20	11.9	20	6.1	21	19.6	21	3.4	21	19
21	7205 日野自動車	52.5	9.7	21	11.4	21	6.7	19	20.0	20	4.7	16	20
	評価対象企業評価平均点	64.79	13.47		13.77		7.34		23.89		6.32		

2022年度評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2021年7月～2022年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	10
【経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンスに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	10
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	10
【説明会、インタビュー、説明資料等における開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	10
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4. ESGに関連する情報の開示（40点）	配点
①脱炭素に向けた長期ビジョンや、中期ロードマップなどを定性・定量両面で開示していますか。また、適切にアップデートしていますか。	20
②脱炭素に限らず、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
③資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンスの有効性が示されていますか。	10
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 [過去1年間を目安に評価]	10

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部 会 長	箱守 英治	大和証券
部会長代理	高橋 耕平	UBS 証券
	岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント
	楯本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（29 名）

秋田 昌洋	クレディ・スイス証券	坂牧 史郎	大和証券
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	杉本 浩一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高田 悟	ライオン・アイ・タワース
石山 孝高	みずほ証券	高橋 耕平	UBS 証券
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行
江口 由紀	野村アセットマネジメント	田中 健司	アセットマネジメント One
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	夏目 宏之	東京海上アセットマネジメント
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	成瀬 伸弥	岡三証券
夏 文俊	CLSA 証券	箱守 英治	大和証券
北川 知明	三井住友 DS アセットマネジメント	花井 美穂	SOMPO アセットマネジメント
木下 壽英	SMBC 日興証券	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
楯本 将隆	野村証券	村井 翔	ニッセイ アセット マネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	森本 章	極東証券経済研究所
小西 慶祐	QUICK	吉田 有史	シティグループ証券
坂口 大陸	みずほ証券株		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。